

雁が腹摺山山行報告（2021年11月14日（日））

参加者： 伊藤（L）、石井（2名）

行程： 8：00 大月駅発＝タクシー（¥7,670）＝8：40 大峠 50－9：50 雁が腹摺山山頂（1,874m）10：20－11：30 姥子山 50－13：20 金山峠－14：00 大垓山 20－15：05 セーメーバン 15－16：20 森屋荘前着 40＝タクシー（¥2,810）＝17：00 大月駅

雁が腹摺山は大菩薩の近くにあり、旧 500 円札の富士山の撮影地として有名である。昔は極めて行きにくかったが、近年林道が山頂直下まで開通し1時間で登れるようになった。

登山口まで公共交通機関がないので、大月駅前から予約していたタクシーに乗り、狭いが舗装された林道を登って行く。登山口である「大峠」に着くと多くの自家用車が止まっているが人は少ない。コースタイム通り1時間で雁が腹摺山山頂（1,874m）に到着した。

山頂からは評判通りの展望で、見事な富士山を見ることができた。頭上に雲があるが全身を見せており、3-4分くらい雪を纏っているのも素晴らしい。山頂には6人組と4人組、単独行の人がただけで静かな山頂であるが、風が冷たかった。

次の目的地である姥子山を目指しいったん大きく下っていく。ほとんど落葉樹の山道を下るとまもなく舗装道路にぶつかり、目の前には姥子山がそびえている。西峰（1,503m）を超えてちょっと下りやや岩がちな斜面を登ると11時30分に姥子山東峰に着いた。

山頂の南側は切れ落ちていて遮るものがなく、周辺の山々や丹沢の山並みを従えた富士山の姿はまさに絶景であり、先ほどの雁が腹摺山から見る景色より素晴らしいと思われた。山頂は狭くてすでに4人組と単独行がいるので我々が入るとほぼ満杯であった。

展望を楽しんだ後下山して先ほどの林道まで戻り、この林道を少し下ると金山鉱泉方面への案内があり山道に入る。大きく下って沢にぶつかり、荒れた林道を下ると百閒干場を過ぎ、少し上って金山峠に着いた。広葉樹林のなかの緩い上りを頑張って14時に大垓山に着いた。山頂と言っても見晴らしはないが、食事をとり20分ほど休憩して出発した。

次は枯れ葉が降り積もっていてわかりにくい道を「セーメーバン」に向かう。まもなくはっきりした踏み跡や標識も現れて安心した。ときどき上りがあるもののほぼ緩い下りの道を、黙々と歩いて15時05分にセーメーバン山頂（1,006m）に到着した。

この山も尾根上の一角で、山頂標識がないと山頂とも思えない。こんな辺鄙でマイナーな山に来るもの好きは我々だけかと思ったら単独行の人がやってきてすぐに出発した。我々も後を追うように出発し迷うこともなく16時に「サクラ沢峠」に着いた。あとは大きく下って16時20分に森屋荘前に到着した。旅館の前から20分ほどでやってきたタクシーに乗り17時ごろ大月駅に到着した。反省会を開催、18時47分の電車で帰途に就いた。

今回の山行はお天気が良く富士山の眺めが良く、黄葉がきれいで静かな山を歩き充実した1日であった。超マイナーなセーメーバンにも行くことができ、大満足の山行であった。

（伊藤）